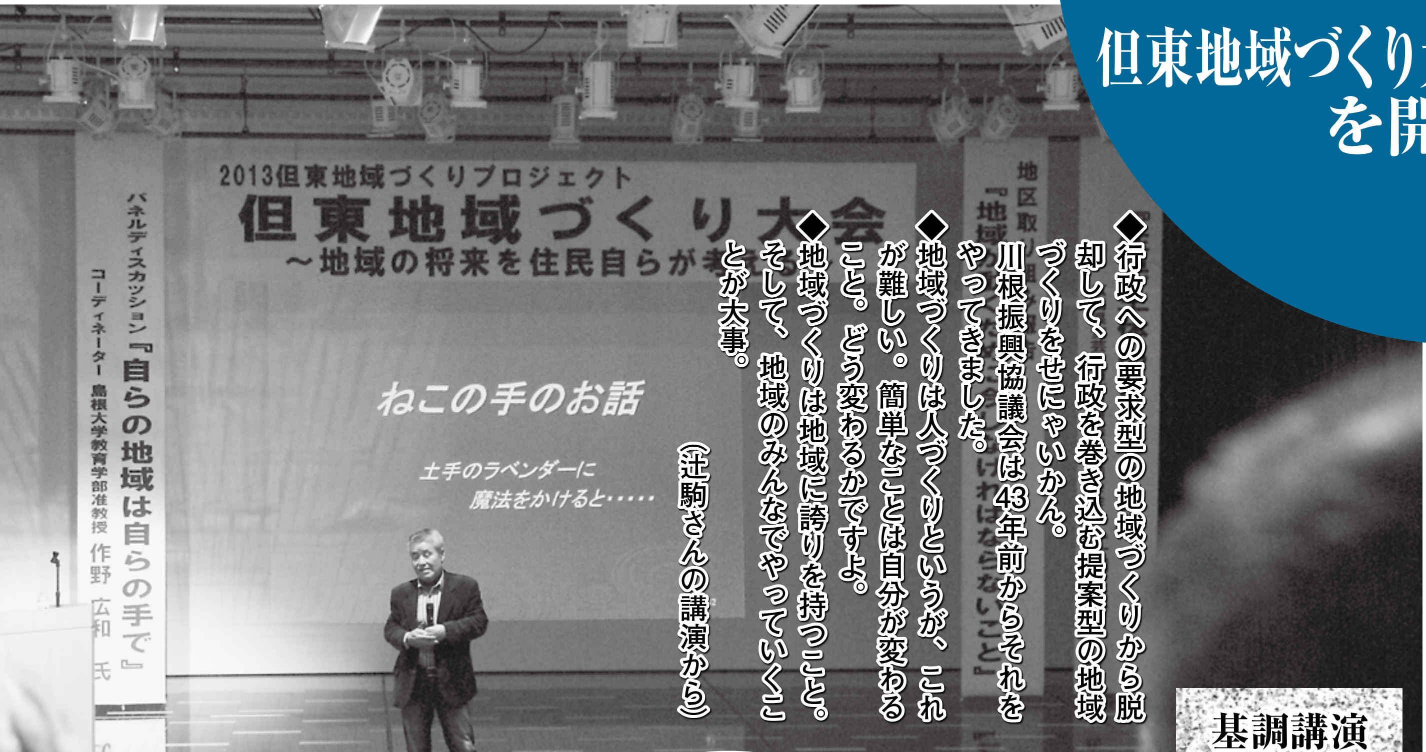
但東地域づくり大会を開催



◆行政への要求型の地域づくりから脱却して、行政を巻き込む提案型の地域づくりをせにゃいかん。
川根振興協議会は43年前からそれをやってきました。
◆地域づくりは人づくりというが、これが難しい。簡単なことは自分が変わること。どう変わるかですよ。
◆地域づくりは地域に誇りを持つこと。そして、地域のみんなでやっていくことが大事。

（辻駒さんの講演から）

基調講演

辻駒健二（つじこまけんじ）さんプロフィール
1944年広島県高田郡高宮町川根に生まれる。就職でいったん川根を離れるが、Uターンして川根で暮らす。1992年からは、川根振興協議会会長を務め「誇り」と「夢」の持てる地域づくりを仲間と実践中

ゆっくりと、そして力強く語りかける辻駒さん。40年余りの地域づくりの取組みに裏打ちされた話には重みがあります

3月21日、但東市民センターで、但東地域づくり大会（主催・但東活性化プロジェクト会議など）が開催されました。

これからの地域づくりのあり方を学ぶ機会として、広島県安芸高田市の川根振興協議会会長の辻駒健二さんの基調講演や但東地域の取組み紹介、パネルディスカッションが行われました。

辻駒さんの「住民主体のまちづくり」と題した講演では、川根地域の取組みの紹介と、活動を進めていく上での気持ちの持ちようなどが語られ、満席の聴衆に訴えかけました。

辻駒さんの話に聴き入る参加者。真剣なまなざしが辻駒さんに向けられる

川根振興協議会（広島県安芸高田市）地域概要

◆人　口　502人
◆世帯数　228世帯
◆高齢化率　43.0パーセント
（平成25年4月1日現在）

川根地域では、昭和47年に協議会を立ち上げ「自分らの手でできることは自分らの手で」をスローガンに、地域の生活を支えるさまざまな活動を展開しています。

◆住民出資による万屋（よろずや）、油屋（あぶらや）の運営◆廃校の中学校を利用した交流拠点施設エコミュージアム川根の運営（年間4千人利用）◆ほたるまつりin川根の開催（5千人余来場）◆一人一日一円募金を財源に高齢者訪問活動の実施◆特産品「ゆず」の製品化、農産物によるコミュニティビジネスの起業などを目指す「農事組合法人かわね」の設立◆地域住民の移動手段を確保する「かわねもやい便」（市町村運営有償運送事業）の運行◆若者世帯の移住を促進する「お好み住宅」の整備など。

これからの地域づくりを学ぶ

作野広和さんは、以前から、但東地域のコミュニティ組織の立ち上げに助言しています

各地区のコミュニティ組織の代表者。右から宮嶋幸広さん（合橋）、田口　保さん（高橋）、橋本祥宏さん（資母）

　但東地域のコミュニティ組織の代表者が、地域の取組みを発表した後、島根大学教授（当時、准教授）の作野広和さんがコーディネーターとなり、パネルディスカッションが進められました。

　パネルディスカッションでは、コミュニティ組織を立ち上げる際に苦労したことなどが話に取り上げられ、各組織の経過報告が行われました。

　「活動したい人が集まっているので、特に苦労したと感じていない」「既存の組織を再編成したが、これまでの地区での物事の進め方を変更するのに苦労した」「地域のことに若い人が関わることが少ないため、気軽に参加してもらえる『まちむらたんけん』をきっかけにして、若い人にも関わってもらった」などの話が出ました。

　コーディネーターの作野さんは「自分たちが地域づくりをやる『覚悟』をすること、まずは一歩を踏み出すこと、楽しいことから始めること、そのことが地域の愛着につながり、心の過疎を打破する」と締めくくりました。

取組みの報告

■地域づくりの会・しぼ　橋本祥宏さん

「資母の宝まつり」を住民みんなで運営し、地域を盛り上げている。今後は、特に人と人がつながる活動を進め、小さくても元気な地域をつくりたい。地域外に出ている出身者にも情報を届け、一緒になって地域づくりをやりたい。

■高橋振興対策協議会　田口　保さん

小学校のグラウンド芝生化作業やガソリンスタンドの存続への取組みなどを通じて、地域の絆が深まってきている。今後は、地域への愛着、ふるさとへの誇りと育みをテーマに、リーディングプロジェクトを中心に活動したい。

■合橋地域づくりの会　宮嶋幸広さん

合橋も、チクタクの運営をはじめている。利用者からは感謝の言葉をもらってやりがいを感じている。コミュニティの組織も立ち上がったので、四つの部会で自分たちで地域を守る取組みを進めたい。

但東活性化プロジェクト会議会長の小牧伸典さん

　この大会は、地域の住民や団体、そして行政が、それぞれどうあるべきかを考える機会。お互いが支え合い、地域を築いていきたい。

但東活性化プロジェクト会議副会長の西垣秀昭さん

　この機会に、何が自分にできるかを考えてほしい。地域づくりは見ているよりも、参加した方が楽しいはずです。皆さんもぜひ参加を。

司会を務めた土野真貴さん

　土野真貴さんは地域コミュニティ支援員として、宮嶌康子さん、衣川晶子さんとともに、但東地域のコミュニティ組織の運営を支援しています。

この大会にエールを送った中貝市長

　過疎化の進行が急激です。10年先に備えなければなりません。それが、地域コミュニティの取組みです。マイナスばかりに目を向けず良いところを探しましょう。まず、地域イメージを変えましょう。

地域コミュニティ支援員が公民館に同居します（写真は高橋地区公民館）

モデル地区に取組みます

　今年、地域コミュニティのモデル地区として、新しい地域づくりに取り組んでいきます。実施地区は、中筋、中竹野、西気、弘道、資母、合橋、高橋の各地区です。

地域コミュニティ

地区（公民館単位）の取組み